

全国一般労働組合全国協議会
労働組合をつくろう！
活動家養成合宿



予想外の若者たちの参加に舌も滑らかな中岡委員長。(撮影 岩崎)

全国一般全国協活動者養成合宿
活動家の世代交代を実感させる活発な合宿を開催
労使関係の力の格差がもたらした職場の劣悪極まりない労働条件の解消に向け、最も重要と思われる丈夫で長持ちする労働組合を作る目的で、全労協全国一般全国協議会が7月17日から18日にかけて初めての試みとして「活動家養成



相談者と相談員になりきっての模擬相談の一幕。(撮影 岩崎)

合宿」を東京会員会館で開催した。全国から延べ56名が参加した合宿の今回の売りは、『合同労組こそ出番の時』を自らの出身母体である全国一般東京南部における分会の闘いを事例として取り上げ、地域へのこだわりと信頼関係作りがポイントと強調された平賀副委員長と、『正義はいつか必ず勝つ』との信念を貫いた大鵬薬品労組闘争をビデオで披露し、これぞ少数組合が多数派に転じるためのバイブルとも言うべき北野議長(徳島ユニ

オン)との二大講演に加え、今回初挑戦となる「模擬労働相談」にあった。その「模擬労働相談」のやり方は全体を5つの班に分け、相談のテーマを(1)解雇、(2)いじめ、(3)残業代、(4)ワンマン経営の4つのパターンに分類したうえで、それぞれの班で相談者と相談員に扮して模擬の労働相談が行われた。結果としては相談される側の視点からしか見ていなかった熟練オルグが、逆の立場に立つことで新たな発見をしたり、会社は異なっても相手のやり口は同一であることなどを見抜いたり、ベテランから新人までが緊張しあったり笑いをこらえたりしながら、あつという間に初の試みはタイムオーバーとなってしまった。また、この合宿には6月4日に結成したばかりの東横イン労組の三田圭子委員長も参加し、ホテルのフロント業務という仕事が好きなのに、過酷かつオカルトまがいの「気づき」のトレーニングという内観研修や、人権侵害のペナルティまで行う会社のやり方が許せない。一人勤務で10名

のお客様に対応することは仮眠が出来ないという以上に、万が一火災が起きた場合には宿泊客の生命の危険に直結することから、利益のために安全すら犠牲にする経営方針は改めさせなければならぬ。人を大切にすれば社員は会社を愛するはずであり、辞めるのではなく社会に胸を張って誇れる会社にするために労働組合を立ち上げたと、参加者たちの目をウルウルさせるアピールを行った。また、司会者の須田執行委員より8月4日には、東横インなどの全国ビジネスホテルチェーン店で働く労働者を対象とした全国一斉労働相談を22カ所で開催していることが提案され、全国協の団結した強力なネットワークのパワーを見せつける時だと檄を飛ばした。これまでの労組の集まりでは珍しい、20代と30代が3割を占めた今回の活動家養成合宿は、早くも来年には模擬団交だとか学習会の交流を力りキュラムに入れようなどの話で盛り上がった。(本誌副編集長 岩崎松男)